



(訂正後)



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月28日

上場取引所 東

上場会社名 ブロードメディア株式会社  
 コード番号 4347 URL <http://www.broadmedia.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 押尾 英明 TEL 03-6439-3983  
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	2,619	4.7	14	—	△1	—	△83	—
28年3月期第1四半期	2,502	△2.5	△53	—	△175	—	△264	—

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △83百万円(—%) 28年3月期第1四半期 △233百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	△1.22	—
28年3月期第1四半期	△3.88	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	7,382	2,407	23.9	25.73
28年3月期	6,722	2,436	26.9	26.53

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 1,761百万円 28年3月期 1,805百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—				
29年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,300	6.9	△20	—	△60	—	△170	—	△2.49
通期	13,000	7.3	150	111.3	70	—	△220	—	△3.22

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

詳細については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社 （社名） 、除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	69,623,516株	28年3月期	69,223,516株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	1,157,332株	28年3月期	1,157,332株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	68,268,382株	28年3月期1Q	68,066,184株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中  
です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	6
4. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
(重要な後発事象) .....	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ117,382千円(4.7%)増加し、2,619,990千円(前年同期は2,502,607千円)となりました。「コンテンツ」「ネットワーク営業」「放送」は減収となりましたが、「スタジオ」「技術」が増収となったことで、売上高は増加いたしました。

営業損益は、14,329千円の利益(前年同期は53,076千円の損失)となりました。「ネットワーク営業」は前年同期と同水準となりましたが、「スタジオ」「技術」が増益となり、営業損益は黒字となりました。

経常損益は、1,696千円の損失(前年同期は175,562千円の損失)となりました。営業利益を計上したことに加え、持分法による投資損失が減少したことや円高による為替差益が発生したことが主な要因となり、経常損失は縮小いたしました。

親会社株主に帰属する四半期純損益は、83,590千円の損失(前年同期は264,215千円の損失)となりました。子会社における税金費用や非支配株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等が影響いたしました。

また、当第1四半期連結累計期間より、事業セグメントの損益をより明確に開示するため、当社管理部門に係る費用・損益を全社費用として別セグメントで開示することといたしました。なお、「売上高」につきましては、これまでの区分に変更はございません。

(平成28年6月30日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
コンテンツ	クラウドゲームサービス (注) 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドゲーム事業</li> <li>・クラウドゲーム機「G-cluster」の販売及びクラウドゲームサービスの提供</li> <li>・通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供</li> <li>・スマートフォン向けクラウドゲームアプリの提供</li> </ul>	ブロードメディアGC㈱ Oy Gamecluster Ltd. G-cluster, Inc. (注) 1
	デジタルメディアサービス (注) 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンサイト「クランクイン！」等の企画・運営</li> <li>・マルチデバイス向け映像配信サービス「クランクイン!ビデオ」の提供</li> <li>・モバイルサイト「ハリウッドチャンネル」等、複数サイトの企画・運営</li> </ul>	ハリウッドチャンネル㈱
	教育サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イーラーニングシステムを利用した単位制・通信制高校「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の運営</li> </ul>	ルネサンス・アカデミー㈱
放送	釣り専門チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給</li> <li>・映像の受託制作</li> </ul>	㈱釣りビジョン
スタジオ	制作事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語字幕制作、日本語吹替制作、文字放送字幕制作、番組宣伝制作</li> </ul>	ブロードメディア・スタジオ㈱
	番組販売事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハリウッド映画等のテレビ局への供給</li> </ul>	
	映画配給事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇場映画の配給、DVD/Blu-rayの発売、テレビ放映権の販売</li> </ul>	
技術	CDNサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツを最適な形で配信するCDNサービスの提供</li> </ul>	CDNソリューションズ㈱
	デジタルシネマサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロードメディア*CDN for theaterの提供、及び上映システム的设计・販売及びレンタル</li> </ul>	—
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向けVFPサービスの提供</li> </ul>	デジタルシネマ倶楽部㈱
その他サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルの客室、会議室へのインターネットサービスの提供、機器の監視及び保守サービスの提供</li> </ul>	ルーネット・システムズ㈱	

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な連結子会社
ネットワーク営業	ブロードバンド回線販売	・「光コラボ (SoftBank 光)」サービスの販売 ・「Yahoo! BB」及びその他商材の販売	—
	ISPサービス販売	・「Yahoo! BB」ISPサービスの販売	
	携帯電話サービスの取扱い	・「ソフトバンク・モバイル」の携帯電話サービスや携帯端末の取り扱い	
全社費用(注)4		・ブロードメディア(株)本社の管理業務(人事総務、財務経理、法務等)及びグループ会社の統括管理	—
その他(注)2		・中国における、釣り番組のコンサルティング、釣りポータルサイトの運営、釣り関連商品の販売、釣り大会の運営等	湖南快樂垂釣發展有限公司
		・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組ソーシャルサービスの運営	ガラポン(株)

- (注) 1 当第1四半期連結累計期間において、Oy Gamecluster Ltd.及びG-cluster, Inc.は、当社の連結子会社であるブロードメディアGC(株)が全株式を取得し子会社化したことから、連結の範囲に含めております。
- 2 「その他」に含まれる事業は、全て持分法適用関連会社における事業であるため、報告セグメントには含まれておりません。
- 3 平成28年4月1日より、「ホームエンタテインメント」は「クラウドゲームサービス」に、また、「映像サービス」と「モバイルサービス」を統合し「デジタルメディアサービス」に名称を変更いたしました。
- 4 当第1四半期連結累計期間より、当社管理部門に係る費用を新たなセグメントとして区分いたしました。

当第1四半期連結累計期間における各セグメントごとの売上高及び営業利益の概況は、以下のとおりです。なお、前年同期の数値につきましては、セグメントを変更した当期の数値と同条件で比較するために、当社管理部門に係る費用・損益を全社費用として別セグメントに組み替えた数値としております。

#### ①コンテンツ

「コンテンツ」セグメントは、クラウドゲームサービス、デジタルメディアサービス、教育サービスで構成されており、テレビ・PC向けの動画配信、スマホ・タブレット向けのコンテンツ配信及び広域通信制高校に至るまでの広範な事業を行っております。また、Oy Gamecluster Ltd.及びG-cluster, Inc.を当第1四半期連結累計期間より子会社といたしました。

売上高は、前年同期と比べ57,118千円(10.4%)減少し、491,596千円(前年同期は548,715千円)となりました。教育サービスでは、入学生徒数は増加したものの、デジタル学習教材の販売が減少したこと等が影響し、減収となりました。

営業損益は62,285千円の損失(前年同期は46,305千円の損失)となりました。教育サービスにおいて前期より引き続きコスト削減を実施しておりますが、クラウドゲームサービスの再編に伴い、当社の持分法関連非連結子会社であったGクラスタ・グローバル株式会社から資産や人員を譲り受けたことで費用が増加したこと等から、損失は拡大しました。

#### ②放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、並びにBS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ11,112千円(1.4%)減少し、775,793千円(前年同期は786,905千円)、営業利益は56,059千円(前年同期は71,054千円)となりました。

一部の視聴料収入が減少したことで売上高は前年同期と同水準となりましたが、販売管理費の増加等により営業利益は前年同期より減少いたしました。

#### ③スタジオ

「スタジオ」セグメントは、映画やドラマ等の映像作品の調達、日本語字幕・吹替制作から、その作品の配給、販売を行っております。

映画配給事業や番組販売事業は、売上高・営業損益とも前年同期と同水準となりましたが、制作事業では受注が大幅に増加したことから「スタジオ」セグメント全体では増収増益となりました。これらの結果、売上高は、前年同期と比べ143,345千円(26.2%)増加し、690,841千円(前年同期は547,495千円)となりました。また、営業損益は54,293千円の利益(前年同期は43,467千円の損失)となり黒字化いたしました。

## ④技術

「技術」セグメントは、デジタルシネマサービス及び「ブロードメディア\*CDN」等のCDN（コンテンツ・デリバリー・ネットワーク）サービス及びホテルの客室、会議室へのインターネットサービスの提供を行っております。

売上高は、前年同期と比べ70,992千円（18.5%）増加し、455,334千円（前年同期は384,342千円）となりました。子会社のCDNサービスが堅調に推移していることやデジタルシネマサービスにおける映画館への配信が徐々に伸びてきていることに加え、ホテル向けインターネットサービスの提供が増加したこと等が要因となり、売上高は増加しました。

営業利益は、75,148千円（前年同期は59,441千円）となりました。上記増収に加え、前期においてデジタルシネマサービスのリース資産を減損処理したため、売上原価が減少したこと等が影響し、営業利益は増益となりました。

## ⑤ネットワーク営業

「ネットワーク営業」セグメントは、光コラボやISPサービス、携帯電話サービス、ブロードバンド回線等の販売代理店として、通信回線販売業者等の事業者を通じて販売活動を行っております。

売上高は、前年同期と比べ28,723千円（12.2%）減少し、206,424千円（前年同期は235,148千円）、営業利益は6,384千円の利益（前年同期は8,870千円）となりました。新商材である「光コラボ（Softbank 光）」の立ち上げが低調となったこと等から減収となりましたが、解約引当率の低下により原価率が改善されたことから、営業利益は前年同期と同水準となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (イ) 資産

流動資産は、新株式及び新株予約権付社債を発行したことで現金及び預金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ628,307千円増加し、5,094,008千円となりました。固定資産は、リース資産が減少しましたが、当社の子会社であるブロードメディアGC(株)が、当社の持分法適用非連結子会社であったGクラスタ・グローバル(株)から資産を譲り受けたことで、のれんが増加したこと等により前連結会計年度末に比べ31,347千円増加し、2,288,556千円となりました。これらの結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ659,654千円増加し、7,382,564千円となりました。

## (ロ) 負債

流動負債は、買掛金や未払法人税等が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ250,316千円減少し、2,587,694千円となりました。固定負債は、長期リース債務が減少しましたが、新株予約権付社債を発行したこと等により前連結会計年度末に比べ939,164千円増加し、2,387,111千円となりました。これらの結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ688,847千円増加し、4,974,805千円となりました。

## (ハ) 純資産

新株式の発行で資本金及び資本剰余金が増加し、非支配株主持分も増加しましたが、親会社株主に帰属する四半期純損失83,590千円を計上したこと等により、純資産合計は前連結会計年度末に比べ29,192千円減少し、2,407,759千円となりました。これにより、自己資本比率は23.9%となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて814,892千円増加し、2,247,017千円となりました。

## (イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナス93,489千円（前年同期はマイナス188,219千円）となりました。税金等調整前四半期純損失21,698千円を計上したことに加え、たな卸資産は減少しましたが、仕入債務が減少したことや法人税等の支払を行ったことから、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

## (ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、マイナス65,573千円（前年同期はマイナス46,192千円）となりました。これは主に当社の持分法適用非連結子会社であったGクラスタ・グローバル株式会社から資産を譲り受けたこと等によるものです。

## (ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済がありましたが、新株式及び新株予約権付社債の発行による収入があったこと等により、プラス966,750千円（前年同期はマイナス247,058千円）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年4月28日の決算発表時に公表いたしました第2四半期連結累計期間の連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

## 1. 平成29年3月期第2四半期連結累計期間 連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	6,000	△140	△180	△280	△4.11
今回修正予想(B)	6,300	△20	△60	△170	△2.49
増減額(B)－(A)	300	120	120	110	—
増減率(%)	5.0	—	—	—	—
(参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	5,896	△78	△216	△589	△8.67

## 2. 修正の理由

## &lt;売上高&gt;

第1四半期において、「スタジオ」セグメントの番組販売事業や制作事業が見込みを上回りました。また、「技術」セグメントのデジタルシネマサービスで映画館への配信が想定を上回り推移し、引き続き好調に推移することを見込むこと等から、当初予想を上方修正いたしました。

## &lt;損益&gt;

上記に加え、「コンテンツ」セグメントの教育サービスや「スタジオ」セグメントにおいて、前連結会計年度から引き続きコスト削減を実施していることや、全社グループにおいても費用が想定を下回ることを見込んでいることから、当初予想を上方修正いたしました。

また、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、同様の理由から上方修正いたしました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、「スタジオ」セグメントで下期に見込んでいた契約を前倒しで締結した影響や、「コンテンツ」セグメントにおけるクラウドゲームサービス及びデジタルメディアサービスの見通しが不明確なことから前回予想を据え置きます。



## 【参考】

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想のセグメント別内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	第2四半期 業績予想	下期 業績予想 (10月～3月)	通期 業績予想	第2四半期 業績予想	下期 業績予想 (10月～3月)	通期 業績予想
合計	6,300	6,700	13,000	△20	170	150
コンテンツ	900	1,300	2,200	△180	80	△100
放送	2,800	2,700	5,500	160	130	290
スタジオ	1,300	1,200	2,500	100	30	130
技術	900	900	1,800	130	130	260
ネットワーク営業	400	600	1,000	10	30	40
全社費用	—	—	—	△240	△230	△470

※ 上記の業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。特に、クラウドゲーム事業の状況によって大きく変動する可能性があります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,432,125	2,247,017
受取手形及び売掛金	<u>1,219,680</u>	<u>1,128,560</u>
商品及び製品	28,538	11,415
仕掛品	176,577	132,606
原材料及び貯蔵品	21,562	20,106
番組勘定	1,309,658	1,287,595
その他	<u>284,970</u>	<u>271,139</u>
貸倒引当金	△7,411	△4,433
流動資産合計	<u>4,465,700</u>	<u>5,094,008</u>
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	754,980	710,565
その他(純額)	282,550	280,900
有形固定資産合計	1,037,530	991,466
無形固定資産		
のれん	<u>39,958</u>	<u>122,626</u>
その他	207,446	223,663
無形固定資産合計	<u>247,404</u>	<u>346,290</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	551,259	521,853
破産更生債権等	5,073	1,383,689
その他	<u>1,668,973</u>	<u>1,071,481</u>
貸倒引当金	<u>△1,253,033</u>	<u>△2,026,225</u>
投資その他の資産合計	972,273	950,799
固定資産合計	<u>2,257,208</u>	<u>2,288,556</u>
資産合計	<u>6,722,909</u>	<u>7,382,564</u>

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	875,486	727,890
短期借入金	100,000	100,000
未払法人税等	113,882	48,989
賞与引当金	97,630	54,617
その他	1,651,012	1,656,196
流動負債合計	2,838,011	2,587,694
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	1,000,000
役員退職慰労引当金	103,749	106,833
退職給付に係る負債	132,260	138,231
リース債務	930,152	862,699
その他	281,784	279,347
固定負債合計	1,447,946	2,387,111
負債合計	4,285,958	4,974,805
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,932,496	2,957,496
資本剰余金	2,589,903	2,614,903
利益剰余金	<u>△3,584,151</u>	<u>△3,667,741</u>
自己株式	△175,245	△175,245
株主資本合計	<u>1,763,002</u>	<u>1,729,412</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,621	△3,222
為替換算調整勘定	45,513	35,653
その他の包括利益累計額合計	42,891	32,431
新株予約権	250	—
非支配株主持分	630,807	645,915
純資産合計	<u>2,436,951</u>	<u>2,407,759</u>
負債純資産合計	<u>6,722,909</u>	<u>7,382,564</u>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	2,502,607	2,619,990
売上原価	1,637,558	1,649,215
売上総利益	865,049	970,774
販売費及び一般管理費	918,125	956,445
営業利益又は営業損失(△)	△53,076	14,329
営業外収益		
受取利息	4,254	29
受取配当金	1,005	611
為替差益	—	28,507
貸倒引当金戻入額	—	14,732
その他	5,712	5,593
営業外収益合計	10,973	49,473
営業外費用		
支払利息	26,544	21,171
持分法による投資損失	87,647	32,129
その他	19,267	12,198
営業外費用合計	133,459	65,499
経常損失(△)	△175,562	△1,696
特別損失		
貸倒引当金繰入額	8,100	20,001
特別損失合計	8,100	20,001
税金等調整前四半期純損失(△)	△183,662	△21,698
法人税、住民税及び事業税	38,575	28,905
法人税等調整額	10,107	17,879
法人税等合計	48,683	46,784
四半期純損失(△)	△232,345	△68,482
非支配株主に帰属する四半期純利益	31,870	15,107
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△264,215	△83,590

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純損失(△)	<u>△232,345</u>	<u>△68,482</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△464	△600
為替換算調整勘定	—	3,898
持分法適用会社に対する持分相当額	△878	△18,296
その他の包括利益合計	<u>△1,342</u>	<u>△14,998</u>
四半期包括利益	<u>△233,688</u>	<u>△83,480</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△265,558</u>	<u>△98,588</u>
非支配株主に係る四半期包括利益	<u>31,870</u>	<u>15,107</u>

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△183,662	△21,698
減価償却費	123,838	93,458
のれん償却額	3,329	2,958
貸倒引当金の増減額(△は減少)	11,666	△7,393
賞与引当金の増減額(△は減少)	△67,081	△43,012
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,249	3,083
受取利息及び受取配当金	△5,260	△640
支払利息	26,544	21,171
持分法による投資損益(△は益)	87,647	32,129
売上債権の増減額(△は増加)	182,666	88,098
たな卸資産の増減額(△は増加)	160,963	84,613
仕入債務の増減額(△は減少)	△132,064	△145,421
未払又は未収消費税等の増減額	△120,120	20,279
その他の資産・負債の増減額	△143,078	△112,469
その他	19,877	4,741
小計	△31,482	34,686
利息及び配当金の受取額	1,006	611
利息の支払額	△26,281	△21,177
法人税等の支払額	△123,362	△87,608
その他	△8,100	△20,001
営業活動によるキャッシュ・フロー	△188,219	△93,489
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	△76,475	△21,643
投資有価証券の売却による収入	50,000	—
のれんの取得による支出	—	△60,000
貸付けによる支出	△80,000	—
貸付金の回収による収入	3,750	2,500
その他	56,533	13,570
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,192	△65,573
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△178,000	—
新株予約権付社債の発行による収入	—	1,000,000
株式の発行による収入	—	50,000
配当金の支払額	△4	△1
セール・アンド・リースバックによる収入	4,693	—
リース債務の返済による支出	△73,746	△82,998
その他	—	△250
財務活動によるキャッシュ・フロー	△247,058	966,750
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	△2,588
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△481,464	805,097
現金及び現金同等物の期首残高	2,397,571	1,432,125
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	9,794
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,916,107	2,247,017

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成28年5月16日付で、当社代表取締役である橋本太郎から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金が25,000千円、資本剰余金が25,000千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,957,496千円、資本剰余金が2,614,903千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						全社費用	合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	計		
売上高	548,715	<u>786,905</u>	547,495	384,342	235,148	<u>2,502,607</u>	—	<u>2,502,607</u>
セグメント利益又は損失 (△)	△46,305	<u>71,054</u>	△43,467	59,441	8,870	<u>49,593</u>	△102,669	<u>△53,076</u>

(注) セグメント利益または損失(△)における「全社費用」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の全社費用であり、グループ本社(ブロードメディア株)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						全社費用	合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	計		
売上高	491,596	775,793	690,841	455,334	206,424	2,619,990	-	2,619,990
セグメント利益又は損失 (△)	△62,285	56,059	54,293	75,148	6,384	129,600	△115,271	14,329

(注) セグメント利益または損失(△)における「全社費用」は、報告セグメントに帰属しない共通費用であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益に差額があります。その差額の内容は報告セグメントに帰属しない共通の全社費用であり、グループ本社(ブロードメディア株)の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「コンテンツ」セグメントにおいて、Gクラスタ・グローバル株から事業資産を譲受いたしました。また、Oy Gamecluster Ltd.及びG-cluster, Inc.の全株式を取得したことにより、同社を連結子会社といたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては85,627千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

全社費用について、各セグメントに全額配賦しておりましたが、セグメント損益の経済的実態をより一層適正に反映させるため、当第1四半期連結累計期間より、各セグメントへの業務負担に応じて配賦し、報告セグメントに帰属しない共通費用を「全社」として区分する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法、変更後のセグメント利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。